

熊取町議会委員会会議録

議員全員協議会

平成28年9月28日開催

熊 取 町 議 会

目

次

〔議員全員協議会（9月28日）〕

熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程について	1
総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備について	7
永楽ゆめの森公園駐車場の有料化について	17
その他	26
1. 公共施設等総合管理計画の策定について	26

議 員 全 員 協 議 会

月 日 平成28年 9 月28日（水曜）招集

場 所 熊取町役場北館 3 階大会議室

出席議員	1	番	文 野 慎 治	2	番	重 光 俊 則
	3	番	浦 川 佳 浩	4	番	河 合 弘 樹
	5	番	坂 上 昌 史	6	番	阪 口 均
	7	番	二 見 裕 子	8	番	渡 辺 豊 子
	9	番	服 部 脩 二	10	番	佐 古 員 規
	11	番	矢 野 正 憲	12	番	鱧 谷 陽 子
	13	番	江 川 慶 子	14	番	坂 上 巳生男

欠席議員 なし

説 明 員	町 長	藤 原 敏 司	副 町 長	中 尾 清 彦
	企 画 部 長	貝 口 良 夫	企 画 部 理 事	明 松 大 介
	総 務 部 長	南 和 仁	総 務 部 理 事	林 利 秀
	総 務 部 理 事	阪 上 敦 司	住 民 部 長	下 中 博 之
	住民部統括理事	吉 田 潔	健康福祉部長	小 山 高 宏
	健康福祉部理事	山 本 浩 義	事 業 部 長	泉 谷 徹
	事 業 部 理 事	大 西 宏	政策企画課長	橘 和 彦
	財 政 課 長	東 野 秀 毅	人 事 課 長	道 端 秀 明
	総 務 課 長	原 田 哲 哉	環 境 課 長	島 尾 学
	健康・いきいき	石 川 節 子	介 護 保 険 ・	野 原 孝 美
	高 齢 課 長		障 がい福祉課長	
	水とみどり課長	山 原 栄 次		
事 務 局 局 長		阪 上 清 隆	書 記	阪 上 章

案 件

- 1) 熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程について
- 2) 総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備について
- 3) 永楽ゆめの森公園駐車場の有料化について
- 4) その他
 1. 公共施設等総合管理計画の策定について

議長（重光俊則君）皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、議員全員協議会にご出席を賜り、ありがとうございます。

なお、本協議会には、町長ほか関係職員の出席をいただいております。

ただいまの出席議員は14名全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

（「14時20分」開会）

議長（重光俊則君）本日の案件は、熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程についての件ほか2件であります。

なお、発言をされる方は、必ずマイクを使っていただきますようお願いいたします。

それでは、案件1、熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程についての件を説明願います。

橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君） それでは、熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程についてご説明させていただきます。

この内容につきましては、さきの6月の議員全員協議会でもお示しさせていただいた内容と重複するところもございますが、前回の議員全員協議会でもさまざまなご意見、貴重なご意見等もいただいております。この9月議会に向けて調整する部分、調整させていただくということになってきたかと思います。その調整もした上で、新たな部分、今回改めてそこを説明させていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

では、まず1、策定体制でございますが、イメージにつきましては次ページにあるんですけれども、まず各機関の役割、これをご説明した上で、改めてイメージ図で確認したいと思いますので、（2）各機関等の役割のほうを、まずごらんください。

まず、①総合計画審議会ということで、これは条例に基づいて設置する組織でございます。町長の諮問に対して総合計画に関する審議、答申を行うため、新たに委員を委嘱させていただきたいと考えてございます。

前回の議員全員協議会の中でも、議決のみならずさまざまな場面で議会からのご意見、意見が言える場をということでおっしゃっていただいております。10年前と同じく今回の総合計画審議会におきましても、委員構成は同様な形でいきたいと考えております。ですので、委員構成としまして、町議会議員、1号議員でございます。それ以降、住民代表、学識経験者、行政機関職員ということで、条例に基づいて25人以内で設置することとしてございます。

すみません、ここで一つ資料の訂正をさせていただきます。「なお、」以降のところでございます。すみません、資料作成中は募集中だったわけなんですけれども、すみません、公募委員につきましては、もう既に応募を締め切っております。結果としましては4名、3名程度で募集しておったんですけれども、4名応募いただきまして、現状一応3名の方を決定したいというふうにして考えてございます。

その他の委員につきましては、今後、議会の議員の皆様も含めまして、依頼をさせていただきたいと思っております。現在、町議会議員としては、10年前と同じく4名の方に依頼をさせていただきたいと考えております。

続きまして2点目、（仮称）まちづくり懇話会というところで、こちらも住民の方々を中心として、総合計画の策定に対して住民の積極的な参画を得て、まちづくりに対する多様な意見、こちらをいただきたいと思っております。

こちらも公募委員をかけてございました。こちらも訂正お願いしたいんですけれども、こちらももう募集中ではなく、既に応募を締め切っております。こちらにつきましては、5人程度募集しておりましたが、応募は1名でございました。ですので、もともと想定しておりましたパブリックモニター制度も活用してということで、残りの4名につきましては、パブリックモニターの方をお願いしたいというふうに考えております。

こちらの懇話会につきましては、15人程度でワークショップ的な形でさまざまなご意見をいただきたい。ただ、こちらは個々具体の細かな施策というよりは、今後町がどういった方向性を目指していくべきなのかということで、基本構想という一番大きな枠組みの中で、まちの将来像に対する意見をいただきたいというふうに考えております。

続きまして3点目、策定委員会でございます。こちらにつきましては、役場内に設置する組織として設置する機関でございます。文書に書いているとおり、副町長、教育長及び部長会規定による部長ということで、次に掲げる者の部長級を構成員とした役場内部に設置する組織でございます。

続きまして、4点目が議会ということで、議会の関与でございます。こちらも6月の全員協議会以降、事務局ともさまざまな調整、意見交換させていただいた中で、前回もご説明しました自治法の改正により、総合計画等の策定の義務づけがなくなりました。法律の中で、基本構想については、

自治法の規定で議決の要件が定められておりましたが、こちらのほうは法改正によってなくなっておりますが、今般、この9月議会において、条例の改正が議会事務局から上げていただいていると思いますので、議決を議会からもいただきたいと。また、あわせて先ほど説明しました総合計画審議会、こちらのほうにもご参画いただいて、さまざまなご意見をいただければというふうに考えております。

5点目がパブリックコメント等ということでございます。パブリックコメントに関しましては、後ほど工程のほうを見ていただければわかるんですけども、基本構想、基本計画、それぞれに1回ずつパブリックコメントを現在募集する前提で考えてございます。

それでは、続きまして2ページ目のイメージのほうをごらんください。

今、各組織、機関の役割等を述べさせていただきましたが、まず、左側に住民の枠組みがございます。広く住民のご意見を今後のまちづくりに生かしていくという意味で、住民の皆様に関しましては、公募、パブリックモニターも含めまして、まちづくり懇話会への参画。また、少し矢印飛びますが、右上の総合計画審議会、こちらにも入っていただきまして、広く住民の意見を反映していきたいと。また、最終的には、パブリックコメントで広く皆さんのご意見も募集をさせていただくところでございます。

続きまして、右側の行政の枠組みを見ていただきますと、行政はこちらで出てきましたまちづくり懇話会でのご意見、また、当然各担当原課とさまざまな振り返りもでございます。こういったところを策定委員会の中で諮りまして、構想基本計画の案、これを策定委員会の中で定めていきたいというふうに考えてございます。

また、この案をもとに議会につきましては、当然議決のほうを頂戴したいと思っておりますし、先ほども説明したとおり、議会の関与としましての審議会委員としての参画、こちらのほうもお願いして、さまざま、議会、町、住民、これが一体となってこの総合計画をつくり上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、3ページ目が策定工程でございます。こちら6月の議員全員協議会の中で、具体的なスケジュール感がないというふうなご指摘もございました。今回、議決いただくというふうな部分も決定してきている部分でございますので、改めて工程のほうを示させていただいております。

まず、議会につきましては、来年の12月議会におきまして基本構想、基本計画のほうを議決いただきたいと思っております、こういう工程をつくらせていただいております。当然その間、3月、6月、9月とそれぞれの議会において、その時点の情報ということで、皆さんに報告させていただく場を設けさせていただきたいと思っております。

また、庁内体制であります策定委員会もその都度行いまして、基本構想、基本計画の案を練っていききたいと。まずは、この10月以降に第1回を立ち上げまして、順次進めていききたいと思っております。

我々事務局から、それぞれこの策定委員会ないし、後に出てきます総合計画審議会、まちづくり懇話会にさまざまな資料なり、さまざまな情報も整理して提供していかないといけませんので、この工程の中で、思っておるそれぞれのたたき台をつくっていききたいというふうに考えております。

住民等の参画ということで、総合計画審議会につきましては、この図では8回程度の枠組みになってございますが、大体8回ないしは10回程度ということで、今は8回程度は最低でも必要かなと思っております。ここは、審議状況によってふやす必要があればふやしていくというふうな前提では考えてございます。

まちづくり懇話会につきましては、こちら3回程度をこの10月からスタートさせて、まちづくりの方向性をさまざまな方々からご意見をいただきたいというふうに考えております。

パブリックコメントにつきましては、先ほど基本構想、また基本計画について意見募集をするということで、それぞれ構想なり計画の案がまとまった段階でパブリックコメントをかける予定としてございます。

以上で、説明を終了いたします。

議長（重光俊則君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。浦川議員。

3 番（浦川佳浩君）このまちづくり懇話会についてお伺いしたいんですけれども、これを15人に決めた理由というのは何かあるんでしょうか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）先ほども申し上げたとおり、ワークショップ形式の形で、1つのグループとしてさまざまに意見を述べていただこうと思っておりますので、余り多過ぎると1つのグループとしてのまとまりにも欠けるのかなということで、一旦15名程度という形で考えております。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3 番（浦川佳浩君）であれば、たくさん意見をお伺いしたいという意向であれば、15人のグループを幾つつくるという方法もあったかと思うんですけれども、どうでしょうか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）今現在、この懇話会につきまして、委員としまして、先ほど申しましたとおり、5名に関しては公募とパブリックモニターということで、それぞれ広く一般的な住民というような方々から意見ももらう場も設けておりますし、残りの10名に関しましても、さまざまな関係団体がございます、それぞれの分野があります。福祉であったり、商工農業、それぞれの分野の団体から会長とか代表とはいわずに、ある一定そのグループからの代表として来ていただくような方を今調整させていただいておりますので、1グループで各分野からは意見を集約できるかなということで考えている部分と、こちらは前回どおりいけないといけないというわけではないんですけれども、10年前も15人で懇話会のほうを実施しておりましたので、一定同じようなやり方で一旦考えているというところでございます。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3 番（浦川佳浩君）やっぱり熊取町にはいろんな世代が住んでいます。若いお父さん、お母さんであったりとか、学生もたくさん住んでおられます。先ほどおっしゃっているようにいろんな団体がいてはと思うんです。そんな中から意見をたくさん聞こうと思うと、15人1グループで足りるのかなというのが率直な意見なんです。やっぱり偏ってしまう可能性が十分あるんじゃないかと思うんですが、その辺は絶対ないと言い切れるんでしょうか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）この懇話会につきましては、この懇話会で何か1つの意見に全てを集約するという形はとっておりません。あくまでこの分野の方はこういうふうな思い、こういうふうな取り組みが大事だと思っている。当然この分野の方はこんな意見を言っているけれども、このグループからはそれに対しても我々も一緒にできるのであったりとか、そういった連鎖的な部分も含めてご意見は頂戴したい。ただ、最終的に、じゃ、それを集約して1つの大きな固まりとしてとるというよりは、先ほど言いました広くさまざまな意見を頂戴したいと。

また、これで十分足りるのかというお話ですけれども、さきの議員全員協議会でもご説明しました昨年総合戦略をつくる際に、住民アンケートも無作為抽出ですけれども、とってございます。ここでも広くご意見は頂戴しておりますので、そういった部分ではその部分はカバーできているというふうに考えております。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3 番（浦川佳浩君）わかりました。

偏らないように、十分配慮の上、お願いいたします。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。鰐谷副議長。

12 番（鰐谷陽子君）2 ページのところでお伺いしたいんですけれども、コンサルタントというのはよく何計画と言われるときに、よくコンサルタント、コンサルタントとお聞きするんですけれども、ど

ういう方で、専門的と書いてありますけれど、どんなような専門を持っていらっしゃるって、支援と
いったらどういう支援を受けていらっしゃるのかというのを、その辺ちょっとお聞かせいただけ
たら。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）すみません、あえて説明はさせていただかなかったんです。

こちらにつきましては、前回の補正予算でも計上させていただいておりましたが、アルパックと
いうコンサルタント会社、実は、これ、たまたまですけれども、結果的に提案型の応募をさせてい
ただいたんですけれども、10年前も関与いただいた業者でございましたが、こちらに書いている専
門的なノウハウというのは、当然今コンサルタント業務を行っておりますので、さまざまな先進
的な事例の収集であったりとかも含めて、また我々がどうしても町に近い、実務に近いところでい
ますので、より専門的な見地からさまざまなアドバイスを受けたいというところと、策定支援とい
うことで会議の運営であったりとか、こういった支援業務、こういったところも中心に考えてござ
います。

こういったところでの委託という形になっております。

議長（重光俊則君）鯉谷副議長。

12番（鯉谷陽子君）運営とかについてもアドバイスをいただくというふうなことということは、かなり
突っ込んだお話まで、運営という中でしたら、そういうことまで入ってくるということはないかな
と思って。その辺はないですか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）我々はコンサルタントに丸投げをするつもりは全くございません。先ほ
ども言いました会議の招集であったりとか、スケジュール調整は我々が当然行っております。委員
等の皆さんの調整であったりとか。

ただ、会議の中での、簡単に言えば、一つは議事録の作成なんかもございます。テーブル起こし
というような形もございますけれども、そういったところから支援もございますし、さまざまな、こ
れから、先ほども言いました、今後いろんな情報収集もしていきますので、我々だけではどうし
ても情報が不足しますので、こういった情報はないかと、こういったデータはないかというような
ところで必要なデータを見つけてきていただいたり、そういった本当にいわゆるサポートをお願い
したいというところでございます。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。江川議員。

13番（江川慶子君）先ほど浦川議員がちょっと質問されたのに関連なんですけれど、まちづくり懇話会、
これは住民の意見を聴取するために行われるんですけれども、審議会のほうは委員構成が書かれて
いるんですが、どんな方がまちづくり懇話会に入られるのか、教えていただけますか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）まだ全ての委員に内諾といいますか、いただいているわけではございませ
んが、先ほど言いましたように、5名は一般公募、パブリックモニターも含めた5人ということで
ございますが、それ以外に関しましては、今、保健・医療・福祉というグループで協働の枠組みで
いろんな団体のご登録といいますか、グルーピングされている中の1団体の方からご代表をいた
だきたいというところ。また、そういった分野でいいますと、残りの分野が生涯学習の分野、文化・
芸術というカテゴリーのところ、あと、スポーツです。また、自然環境・美化活動というグル
ープで登録されているような団体の方、あとは地域活動・国際協力・国際交流、こういったグル
ープです。あと、子育て・子どもと青少年の健全育成、こういったところのグループからの代表。また、
先ほども言いました農業の従事者というようなところで農業を代表されるような方、あと、商工業
ということで、こういったカテゴリーからそれぞれ、その中でまたグループが幾つかあるんです
けれども、そこから1つ選ばせていただいて、そこのご代表に、今調整をかけさせていただいて

ところでございます。

議長（重光俊則君）江川議員。

13番（江川慶子君）わかりました。

各分野で代表が出てもらうような形に体制をとるということで、もう懇話会のほうが10月からということなんで、もう早速動かなければいけない時期に来ていると思うんですが、その進め方というのは、今ある団体に声をかけていって、すぐ決めて10月には行うという形になるんでしょうか、その辺ちょっと。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）はい、まさしくおっしゃっていただいているとおりで、今ご依頼をかけながら、一定今想定している日程もお伝えして、この日でまず第1回目お願いできないかということで、今調整させていただいているところでございます。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。渡辺議員。

8番（渡辺豊子君）すみません、今の、ちょっと関連になってくるんですけども、委員構成なんですけれども、女性の割合というところをちょっと教えていただきたいんですが、今、女性の活躍推進法も決まりまして、女性の意見というものもしっかりと、そういった審議会や懇話会の中で取り入れていっていただきたいんです。

それで、今、公募で決まっている分が総合計画審議会のほうでは3名決定したというところ、そして、まちづくり懇話会のほうでもパブリックの委員は4名で、公募で1人というところでしたが、そういった女性の割合、そういった今決まっている人の中の女性の割合と、今何かそういうふうに決めている、今言う、各種関係団体の代表の方も、そこはそこの団体で決めてくるでしょうけれども、女性の割合というものをどういうふうに考えておられるのか、ちょっとその辺教えてください。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）その点、我々も十分認識してございます。

公募のほうは、もう一定いたし方ないといえますか、手を挙げていただいた方ということで、審議会の3名につきましては、全て男性になっております。懇話会の1名の方も男性でございます。

そういったことを踏まえまして、まず、審議会の各種団体から来ていただく方も当然会長等に限定していくと、やはり男性に偏ってしまう可能性もありますので、団体に依頼するときは、そういった女性から来ていただけないかというふうなご相談も各種団体とはさせていただきたいというふうには考えてございます。それによって、比率も上げていきたいと。

また、懇話会のパブリックモニターの残り4名の方に関しては、もう1名公募で男性ですので、3人は女性にお声をかけたいというふうには思っております。これも受けていただくかがありますので、あくまで予定でしかございませんが、そういった形で女性の比率を高めるふうな工夫といえますか、想定はして取り組んでいるつもりでございます。

8番（渡辺豊子君）わかりました。お願いします。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

8番（渡辺豊子君）はい。

議長（重光俊則君）佐古議員。

10番（佐古員規君）まちづくり懇話会は大体そんな感じでわかったんですけども、広く住民の声を聞くという中で、我々いろいろ研修行っていて、まちづくりを研究していく中でですけど、やはり小学生や中学生の意見をもっと取り入れてくださいということも、いろいろ先生方からご指導いただきます。

そういった意味で、今現在の小学生が今後10年後、20年後熊取町にずっと住んでもらうためにも、その方たちが住みやすいようなまちというのは、やはり夢にでも描いているはずなんです。だから、そういったのは絵に描いた餅かもしれません。どういった夢があるのかもわかりませんが、

広くそういったのを聞くことで、もしかしたらまちの活性化とか、まちづくりに生かせるヒントがあるのではないかと考えていますので、ぜひ小・中・高・大学生、若い人の意見を取り入れる、そういう機会を設けていただきたいと思います。いかがでしょうか。

議長（重光俊則君）橘政策企画課長。

政策企画課長（橘 和彦君）貴重なご意見かと思えます。今、工程の中で、具体的にちょっと落としていくわけではございませんが、当然また審議会を行っていく中で、じゃ、そういう世代の方々はどのような意見があるのかというご意見が出れば、当然事務局としても、そういう意見集約が必要かという部分もございますので、どういった形で集約できるかは、ちょっと今後勉強させていただきたいとは思っております。

ただ、今、先ほど言いましたパブリックモニターを女性の比率を高めるとか、それとは別に、どうしても各種団体の方々になりますと年配の方も多くなりますので、そういったパブリックモニターであったりとか、あと懇話会の中でも、各種団体の中でも、大学生の方なんかにも声をかけたりしようという部分で、一旦そういった年齢構成なんかも考慮しながら組織体制を築いていきたいというふうには考えておりますので、今ちょっと具体的にこうしたい、こうするということはちょっとご答弁できる部分ではないんですけれども、前向きに勉強はさせていただいた上で、ただ、事務局としてもそういった思いを酌んだ組織体制を考えているというところでご理解いただければと思います。

議長（重光俊則君）佐古議員。

10番（佐古員規君）ありがとうございます。

ぜひ、例えば将来の熊取町ということで絵を描いていただくとか、作文をつづっていただくとか、いろんな方法で教育委員会と一体として、そういう取り組みができるのではないかなと思っています。

案外、中学生でも小学生でもそうですけれども、しっかりした意見を持っている方、いらっしやいます。ですから、そういった意味で、しっかり子どもたちの意見も取り入れて、将来の熊取町の、熊取町にしかないそんなまちづくりができたらなというふうに思っております。ぜひよろしくお願いいたします。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

それでは、質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これをもって、熊取町第4次総合計画策定体制及び策定工程についての件を終了いたします。

次に、案件2、総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備についての件を説明願います。石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君）それでは、総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備についてご説明させていただきます。

総合事業とは介護予防生活支援総合事業の略称で、生活支援体制の整備とともに、介護保険制度の改正に伴う新たな事業体制でございます。

まず1点目、事業構築の背景でございます。

単身高齢者世帯や高齢者夫婦のみの世帯、認知症の高齢者が増加する中、要介護等認定者数の増加に伴い、介護給付費の負担増加、生活支援ニーズの拡大による介護人材不足が見込まれております。また、住みなれた地域で自分らしい生活を続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められており、本町では介護予防の強化及び生活支援体制の整備を重点的に推進してまいります。

2つ目の介護予防・日常生活支援総合事業への移行に向けての進捗状況でございますが、地域の

実情に応じた多様な主体による多様なサービスを充実し、地域で支え合える体制づくりを推進するとともに、介護予防による自立支援を目指しており、平成29年4月の移行に向けて、サービス体系や実施方法について現在検討中でございます。

(2)の進捗状況については、3ページの別紙1をごらんください。

平成29年4月に移行する総合事業の枠組みと9月時点での進捗状況を図示しております。改正前と書かれている向かって左側は現行のサービス体系で、向かって右側が改正後のサービス体系でございます。

今回の改正では、要介護の方への介護給付及び要支援の方への訪問看護、通所リハ等予防給付は従来どおり変更はございません。真ん中の矢印では白抜きで表現しております。

主な変更点は3点ございまして、1点目は、現行の要支援の方への訪問介護、通所介護が、全国一律の予防給付から、改正後の市町村の実情に応じたサービス体系を構築する総合事業であるA、介護予防・生活支援サービス事業へ移行いたします。

2点目は、介護予防事業の強化です。従来の介護予防事業のうち、要支援、要介護になるおそれのある方を対象とした二次予防事業も、A、介護予防・生活支援サービス事業に移行します。また、B、一般介護予防事業では、住民主体によるタピオプラス体操やカフェなどの地域展開を図り、人と人とのつながりを通じて身近な地域での集いの場を拡大していく地域づくりの推進を行ってまいります。

3点目は、包括的支援事業の充実でございます。右側の欄をごらんください。包括的支援事業には大きく4つの事業があります。まずは、平成28年度に地域包括支援センターの委託による重層的な体制整備を図ったほか、在宅医療・介護連携推進事業や認知症施策推進事業につきましては、ひまわりネットで培ったネットワークを十分に生かし、既に推進中であり、四角にバツの印であらわしております。残っている生活支援体制整備事業につきましては、これから推進するに当たり、後ほど説明させていただきます。

それでは、進捗状況につきまして、もう少し詳しく説明させていただきます。

A、介護予防・生活支援サービス事業のうち、訪問型サービスと通所型サービスにつきまして、4ページ、5ページに示させていただいております。

4ページ、5ページのサービス体系でございますが、全てのサービスを整える必要はなく、市町村の実情に合わせて構築するものとされております。また、平成28年9月現在の状況でございますので、今後において変更も考えられますことをご了承ください。

まず、4ページをごらんください。

4ページは訪問型サービスを示しており、大きくは現行の訪問介護相当の①訪問介護と、多様なサービス②から⑤の訪問型サービスAからDに種別されます。このうち、点線で囲んだ3つのサービスについて、平成29年4月からの実施に向けて調整中でございます。

①訪問介護は、訪問介護員、いわゆるヘルパーによるサービスで、認知機能の低下のある方や退院後の状況が変化しやすい方など、専門的サービスが特に必要な方が対象となります。

②訪問型サービスAは、主に雇用労働者が行う緩和した基準によるサービスであり、訪問介護員の資格がなくても、一定の研修等を受けていれば担っていただけます。

④訪問型サービスCは、保健・医療の専門職が短期集中で行うサービスで、介護予防事業からの移行を検討しております。

③訪問型サービスB、住民主体による支援、及び⑤訪問型サービスD、移動支援につきましては、後ほど説明する生活支援体制整備事業により、担い手の育成等を行う中で、今後検討していきます。

次に、5ページの②通所型サービスについてごらんください。

訪問型サービスと同じく点線で囲んでいる3つのサービス、①通所介護は現行の通所介護相当。②緩和した基準である通所型サービスA、④介護予防事業から移行する保健・医療専門職による通所型サービスCについて、4月からの実施に向けて調整中でございます。

続きまして、1 ページにお戻りください。

3 点目の生活支援体制整備事業の構築についてご説明させていただきます。

この事業は生活支援の充実を図るため、町が中心となって、高齢者等の生活支援サービス提供機関や地区組織と連携をしながら、多様な日常生活上の支援体制の充実及び強化、高齢者の社会進出を一体的に図っていくため、大きくは生活支援コーディネーターの配置と生活支援・介護予防協議体の設置を行うものでございます。

3 ページをごらんください。

この事業は、表の右側中ごろ少し下の包括的支援事業の欄で唯一残っていた4 つ目の生活支援体制整備事業の部分でございます。

もう一度、1 ページにお戻りください。

(1) の①生活支援コーディネーターの役割でございますが、3 点ございます。A、資源開発として、高齢者のごみ出しや安否確認等、地域ニーズや地域資源の把握、担い手の育成とともに地域の実情に応じたサービスの開発を行います。B、ネットワークの構築として、地域でのサービス提供主体等によるネットワークの構築。C、地域の支援ニーズやサービス提供主体の活動のマッチングであり、まずは、A、資源開発とB、ネットワークの構築から取り組んでまいりたいと考えております。

②生活支援コーディネーターの配置状況でございます。現在、熊取町健康・いきいき高齢課から2 名、地域包括支援センターやさか2 名、熊取町社会福祉協議会1 名、熊取町シルバー人材センター1 名の職員、計6 名がこの役割を担うことができる状況でございますが、当面は町職員がコーディネーターの役割を担っていきます。

続きまして、生活支援・介護予防サービス協議体につきましては、2 ページに掲載しておりますが、最後のページ、6 ページのイメージ図をごらんいただきながら説明させていただきます。

6 ページをごらんください。別紙2、生活支援体制整備事業のイメージ図でございます。

協議体とは、町が主体となり主には生活支援コーディネーターの役割を補完する組織で、地域住民、関係機関等、生活支援サービスの提供主体が参画し、定期的に情報共有や連携強化を図ること、住民主体の地域づくりを構築していくものでございます。

協議体の構成団体としましては、学識経験者、福祉関係者、地域住民、地域包括支援センター職員、民間企業関係者、行政職員、生活支援コーディネーター等で検討中でございます。

この事業の推進により、図左側に示しております介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業の通いの場の事業のみならず、インフォーマルサービスであるボランティア活動、地域活動等サービスも含め、拡充を目指して取り組んでまいります。

2 ページにお戻りください。今後のスケジュールでございます。

(1) 総合事業につきましては、平成29年4 月の事業開始に向け、12 月ごろから事業者説明会、ケアマネジャー等各種団体等への説明会を行い、平成29年1 月からケアマネジャーを通して、利用者の皆様への周知を行ってまいります。

(2) 生活支援体制整備事業につきましては、協議体準備会の開催、協議体参画団体の調整などを経て、12 月議会にて関連予算について予算計上をし、平成29年1 月から協議体を発足する予定でございます。

以上で、総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備についての説明を終わらせていただきます。

議長（重光俊則君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。鰐谷副議長。

12 番（鰐谷陽子君）私が先日一般質問させていただいたお答えをいただいていると思うんですけど、すごくわかりにくいというか、理解しにくいんですけど、介護予防支援サービス事業、要支援1、2の方において変わってくるということですよ。その方がどういう見通しがあるのかというの、

この図を見せていただいても、訪問型サービスAとCをどういうふうにして振り分けていきはるのかというのも、その辺もわかりませんし、担い手をこれからつくっていくというふうなお話やったとかと思うんですけども、その辺もすごく難しい問題だと私は感じているんですけども。

やはりこういう緩和した、今ヘルパーで働いている方もお給料はかなり少ないんです。大変だからやめていかれるという方がふえているという話を聞いたりするんですけども、その緩和した基準ということは、何日間かヘルパーとしての簡単な講義を受けて、ヘルパーとして働いていかれるということなんでしょうけれども、これも報酬が下げられた形で、その地区地区で報酬とか下げる基準とかというのは決めていいようにはなっているみたいですけども、泉北のほうで話し合われているのは、8.9%下げた報酬でというような話をお聞きしています。熊取町はどれぐらいの報酬でというのがまだこれから見えてはこないんですけども、そのときに、やはりそういうのを受けてやろうという方を探していくのが非常に大変だろうなという。

高齢者の方と言うてもおかしいですけども、今仕事をしてはれへん方にお声をかけていかな、仕事をしてはる人はそんなことしてられませんか、仕事をしていらっしゃらない方にお声をかけていくということになっていくんですけども、そんな方もやはり今60歳になっても働いているという方は非常に多くなってきていますので、そういう方をどうやって探していくのか。

それをまた、コーディネーターが探していくのか、その辺はちょっと見えにくいんですけども、その辺のことをちょっと教えていただけたら。どういうふうにして探して、どういうふうにしてやっていかれるというのか。

議長（重光俊則君）今の質問で、3つあったんで、3つ分けて答えていただけますか。

まず、要支援1、2が変更後どうなるのかということが、ちょっとわかりにくいというのがありました。要支援1、2がわからない。

12番（鰐谷陽子君）要支援1、2の方の訪問型サービスAと訪問型サービスCというのに、AとCに分けられているので、その辺の、本人の希望なのか、分けていきはる基準というのがあるのかどうか、その辺のことと……

議長（重光俊則君）まず、その点からお願いできますか、答弁のほう。石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君）まず、1点目の、議員が言われているのは、きっとフロー図みたいな形で認定された方がどのように流れていくのかという図式があれば、もっとわかりやすかったという意味で、例えば介護認定にいくのか、チェックリストを受けるのか、それによってサービスの体系が受けられるものが制限されるのかとか、そういうものがフロー図みたいに示されていたらわかりやすかったんじゃないかというご意見やったというふうに感じます。

ただ、今時点での状況ですので、本来ならここでそれをお示しできたらいいんですけど、そこにまだ示せるだけの形に整っていませんので、今現在でここで示すことができませんでした。

変更後どうなるかということですけども、要支援の方が現行サービスを全く受けられない形ではありませんので、現行のままでいくか、またはAでいくか、それからCでいくかというのはケアマネも通じてになりますけれども、ご本人も一緒にケアプランというのはつくっていくものやというふうに思っております。

議長（重光俊則君）山本浩義健康福祉部理事。

健康福祉部理事（山本浩義君）ちょっと補足なんですけれども、認定を受けられている方につきましては、やっぱりケアマネを通じて各サービスに促していくという形になろうかと思います。ですので、今までとは余り変わらないと思います。

ただ、ここで重要なポイントは、ちょっとスケジュールの中でも石川のほうが説明させていただきましたとおり、やはりケアマネのほうにこの制度の説明を熟知してもらって、町の方針をしっかりとコミュニケーションをとって、そのケアマネがしっかりとこのサービスにつないでいくということを、やはりケアマネ中心でそこはなっていくしますので、そこをしっかりとやっていきたいなと思います。

そのときには、もう必ず、先ほどちょっと石川が言わせていただいたように、図示をやった上で、こういう流れでいきたいと思いますということで示させていただいて、しっかりとそこはコミュニケーションをとっていったって、サービスにつないでいくのがケアマネによってつないでいくというような形で取り組んでいくという形です。

新規の方につきましては、場合によってはチェックリストみたいなものは活用という形になりますけれども、その場合もやはりケアプランを作成しなければいけないので、やはりこれもケアマネになってきます。ですので、いずれにしてもケアマネのほうにしっかりとその制度を、町が用意できるサービスの体系、そこを説明をやった上で、ケアマネを通じて要支援者の方にアプローチしていくという形で予定しておりますので、ケアマネへの説明が12月ごろを予定しております、1月からは各要支援者の方に対して、ケアマネを通じておのおの丁寧に説明させていただくという流れを考えております。

議長（重光俊則君） 鯉谷副議長。

12番（鯉谷陽子君） その辺の流れはわかりました。

でも、この訪問型サービス、訪問型のほうだけにちょっと絞ってお聞きしたいんですけど、訪問型サービスCと訪問型サービスAというのでも、かなり委託されてされていくんですけども、この辺も受けるほうの側に見れば、訪問介護を受けるのと値段的にも違ってきますでしょうし、時間的にも違ってきますし、その辺のことが全然見えていないというか、町での方針みたいなのがその辺のあたりまでいかないと、まあ言うたら説明できないという状況ですよ、12月に。そやから、あと1カ月や2カ月でその辺までもいきはるということにはなってくるやろうと思うんですけども。

すごく心配するのは、安くなり過ぎても、安いほうがいいわというふうな形になられても、今まで訪問介護でやってこられた方のお仕事を奪ってしまうようなことにならないのかという心配もありますし、また、高過ぎて、高過ぎと言うたらおかしいですけども、それほど変われへんのやったら、今までどおりのほうでいきたいという方も多くなってきますでしょうし、その辺のことも何か全く暗闇を歩いているような感じがして仕方がないんですけども。

すごく、どういうふうに変わってくるのかというのが、保健師によるおうちでの相談指導と書いてあるんですけど、こうした委託でそういうことができるのかという感じで、保健師なんていうのは、すごく人数限られてきますし、訪問型サービスCはこんなだったんかなという感じで、今ちょっと見させてもらったんですけど、相談指導というのは私も見たことありますけれど、保健師だったんですか、何かその辺もちょっと私自身の認識とここは違うような気がしたんですけど、医療関係者であってましたか、訪問サービス型のCというのは。

だから、そしたらかなり人数的には限られてくるんじゃないかという心配もするんですけど、その辺はどうなのでしょう。

議長（重光俊則君） 石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君） 現行の訪問看護相当と、訪問型サービスA、訪問型サービスCの対象者の違いというところを答えさせていただきたいと思うんですけど、まず、現行サービスになる方というのは、合致するというよりも、そこは身体介護が必要な方とかが主になってきます。日常生活をするにも介護が必要な方をAというにはいきませんので、そこは訪問介護の1番のところで行います。

今回、緩和した基準にするサービスというのは、介護ではなく生活支援の部分がここの中に入ってきます。なので、ヘルパーでなくてもできる事業内容をこちらですということでございますので、ヘルパーがここで担うのではなく、ヘルパーの事業は①の訪問介護。介護も必要なところ。介護も必要な、例えばごみ出しをするとか、掃除をするとか。掃除はヘルパーでなくてもできますので、そういうところは訪問型サービスAのほうになります。

訪問型サービスC、ここの説明のところで保健師等というふうに書かせていただいております。

現在、介護予防事業での訪問型事業では、介護予防事業では、理学療法士の先生や言語聴覚士の先生、はたまた管理栄養士、歯科衛生士、あと保健師も含めておうちに行って、自宅になかなか閉じこもりがちの方とか、あと一歩気持ちが整えば外に出られるとか、階段のところの手すりのところをもうちょっとすれば外に出られるのにとこの相談に乗るためのサービスでございまして、言えば①と②と④番は用途が違うサービスというふうに考えていただけたらと思います。

ですので、今回の体系によって今までのものをすごくサービスを低下させるのではなく、今までのサービスにプラスしていろんなニーズに応じた形のサービスをつくることによって、より使いやすい、住民の皆さんのニーズに合ったものを実施できるというふうに考えております。

また、短期集中予防サービスと書いて、3カ月から6カ月という集中型にしますので、訪問型サービスCにつきましては、通所型サービスCと合わせまして、じっくりとそこで介護予防をその人の機能向上を図って、例えば家から出られなかった方が出られるようになるとか、バス停まで行けるようになるとか、ふれあいセンターやほかの自分の行きたかった趣味のサークルに行けるようになるとか、そういう短期的な目標を持ってこの事業を推進することによって、熊取町の要介護の方が一人でも二人でもそこから抜けるというか、要介護を使わなくてもいけるような仕組みづくりを、ここを中心に担っていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

議長（重光俊則君） 鯉谷副議長。

12番（鯉谷陽子君） わかりました。

訪問型サービスCというのも、私はちょっと難しいなというふうに思っています。

これはなぜかという、そういう出にくい方とか、それから家から出たくない、介護保険を受けたくないという方、男性にすごく多いんですけれども、ほかの人を家に入れたくないとか、それから介護サービスというか、あんな施設に行っちゃいたくないとかはしたくないとかという、女性にしたらすごく困るんです。いっこもいなくて、家の中でずっと閉じこもりがちになって。

そういう方というのは、なかなかこういうのがあって、確かにそうになっていただけたらありがたいなという気はしますが、なかなかそこへ結びつけていくというのが非常に難しいケースが多いというのか、本当にもう初めから家にいてるんやというふうな感じで固執されている方がいらっしゃるんです、確かに。出ていってくれたらというふうに、奥さんは思っていらっしゃっても、足が悪いからといって家から出ないんやというような話とか聞いたりするんで、その辺のことを、本当にこういうふうなことで、痛い足を引きずってでも出ていってもらえるような、そういうふうになってもらえたらすごくいいんじゃないかなと思うんですけれど、そこに結びつけていくのに難しさを感じていますので、その辺のところは、やはり地域的にいろいろなところで目を光らせてもらって、ここもちょっと大変みたいよというようなお話があったら、その辺はそういうところへ結びつけていってもらえるようにしていってほしいのと。

それと、通所型もあれなんですけれど、サービスAのほうも、今までの訪問介護や通所介護と違って、またこれは通所サービスも、昔のあんなミニデイというんですか、おうちでミニデイみたいなことをやってはって、幾つかは潰れていったようなところとかあるんですけれど、そういうところが復活していくというふうな感じで捉えてもいいんですか。その辺がちょっとよく理解できていないんですけれども。昔、各、幾つかありまして、お年寄りが通っていたところが幾つか、バスがなくなったとか何とかというので潰れていったところが何か所かあったんですけれど、そういう形ではなしに、今ある通所介護とか訪問介護の中でサービスをする人が、ヘルパーや資格を持っていらっしゃる方でないというふうに捉えてしまっているのかな。その辺のことを教えていただけたらと思うんですが。

議長（重光俊則君） 石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君） 鯉谷議員がおっしゃっていただいたのは、昔行っていた街かどデイの、地域に幾つかありまして、要介護を受けていない方もそこで喜んで皆さん行っていたという事業というのが昔ございました。それとはまた違う形での立ち上げで、街かどデイがここに

入るというイメージではございません。

ただ、少しでも、このサービス体系をつくっていく目的というのは、冒頭でも申しましたように、これから高齢者がふえていく中で、ヘルパーの需要がそれに追いついていくかとか、それで介護を担う方が、これから少子高齢化の中で追いついていくかということを考えましたら、全部を見切れないかもしれない。だから、今のうちから10年後を見据えて、いろんなサービス体系を整えていくという意味合いで、まずは形をつくるものと考えていただけたらと思います。

Aになるか、Cになるか、通所介護になるかというのは、それはケアマネがその方に応じて、この方やったらどのサービスがいいやろうかということも視野に入れながら考えることで、町があなたはもうここですとか、あなたはここですとか決めるものではございませんので、そこについてもご理解いただけたらというふうに思います。

議長（重光俊則君）山本浩義健康福祉部理事。

健康福祉部理事（山本浩義君）鯉谷議員、まず最初おっしゃいました訪問型Cについてのちょっとハードルが高いかなというところは、おっしゃるとおり、やはり外に出たくないなという方というのは、なかなかそこにつながらない方は多いです。

ただ、やはりその専門職の方とリハの先生などと話、やはり僕らもこのサービスの体系をたくさんつくれたら、提供できればなというところの中でコミュニケーションをとっていつているんですけども、やはりそういう方は、一声専門職が「一遍外に出てみいへん」とか、声のかけ方によってはどんどん外に出て改善していくようなケースをたくさん見てきたというところもあって、やはり町としたら、それを、これを絶対使えというわけではないんです。ただ、選択肢としてきっちりそこを用意やっときたいなという思いがすごくありまして、ハードルがちょっと高いなというところはおっしゃるとおりなんですけれども、用意させていただく方向で考えているということをご理解いただきたいと思います。

それと、あと、街かどデイというのは、昔あったというのは私も記憶しております。もし街かどデイという制度があれば、恐らくこの通所のAもしくはCあたりに入ってくるのかなというふうには思っております。ただ、今現段階で補助制度がなくなって、その中で下火になってなくなっているというような現状もありますが、やはり住民が街かどデイを復活するという動きがこの先、今の時点ではないですけれども、あればやはり町としてもそこはありがたいというところもありますし、その中で対応してくださる方々によれば、Aになる可能性もあればCになる可能性、ボランティアだけであればCになる可能性もあると。そういったところは、今後の動きの中で、またこのサービスの提供をふやしていければ、拡大していければというふうには考えております。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

もう1点だけ、質問があったヘルパーの報酬、それから、やる人が集まるかどうか、これは雇用労働者のことにかかわると思うんで、その辺についての見通しとかご意見、答弁は少しありますか。山本浩義健康福祉部理事。

健康福祉部理事（山本浩義君）その報酬の件なんですけれども、本会議のほうでもちょっとご紹介させていただきましてけれども、3市3町の枠組みの中で意見調整をやっているというところが現状でございます。

固まりつつあるというところで、まだ入り口かいなというところではないというところをご理解いただいて、私先ほど申し上げましたように、11月から12月にかけて事業所の方々に説明させていただいて、報酬の内容によっては、これやったら参画できるなとか判断していただく一つの基準になろうかと思っておりますので、そこはもう大詰めを迎えているという現状報告。ただ、動きがありますので、今の現時点の額をはっきりと言うことができないというところはご了承いただきたいというふうに思っております。

あと、ヘルパーのところの話なんですけれども、やはりこの制度の改正、大きな国の動きの中で、冒頭石川のほうで説明させていただきましたとおり、介護給付費の増大によってなかなか立ち行か

なくなると、これは本会議でもお話しさせてもらいましたけれども、その中では、やはり役割分担というのが大事なかと。生活支援でできる方々については、本当にボランティアの方でできるなど。ヘルパーはやっぱり身体介護とか、本当にプロの力でそれなりの報酬をもらってやらなければいけないところ、ここを担っていつてもらえへんかったら、この大きな流れの中で、介護従事者の不足ということが物すごく懸念されている中では、そこをしっかりと国主導でこの制度は構築されて、我々もそのとおりやという信念を持って動いている中では、ここをしっかりとすみ分けをやって、役割分担して、ヘルパーにはヘルパーのお仕事をしていただけるように、制度の構築に向かっているというところでご理解いただきたいなと思います。

議長（重光俊則君）よろしいですか。鰐谷副議長。

12番（鰐谷陽子君）お話はよくわかりました。

私たちもヘルパーがだんだん減ってきているということはすごい問題やと思いますし、持っている方はかなり多いんですけども、やはり大変なお仕事で、訪問介護にしましても、行って働いている時間だけは、お給料がありますけれども、行き帰りの時間帯とか、それから帰って記録を書くとかという時間に対してはなかなかお給料が発生しないみたいな、そういうところがありまして、集まらない。訪問介護についてはなかなか大変な仕事やなという感じで、私も見ていますけれども。

その辺で、業者としては、委託されると受けざるを得ないというふうなところも出てこようかと思うんです。それで、もし研修を受けた人が集まらなかった場合、そこをフォローしていくのは、やはり今まで委託を受けたところにいращやるヘルパーとか何かに、また負担がかかってくるのではないかなというふうな、もしこのサービスAがふえてくれば、かかってくるのではないかなというので、しっかりとそういう人材を集めてくるというところ辺も、町は委託するときにはその辺のこともしっかりと覚悟を持ってやっていただけないと、後、今度指定された業者が回っていかなくなってしまうというふうなことになっても大変やなというふうに感じますので、またその辺よろしく願いしておきます。

議長（重光俊則君）石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君）訪問型サービスAの事業につきましては、こちらが指定するというか、受けていただく、自分のところが受けますというふうに手挙げ方式でございますので、やりますと言うたところを指定する形になりますので、まずその点が1点と、担い手の育成につきましては、今回説明させていただいた生活支援体制の整備のところにもかかわってまいります。やはりボランティアを含め、地域の中で担っていただく担い手の育成というのは、その中の大きな課題の一つに入っておりますので、その体制整備等含めて、十分に図っていきいたいと思っております。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。江川議員。

13番（江川慶子君）すみません、ちょっと短く、手短に。

この制度改正によって、とても事業者が、報酬の部分で下がるということで経営が成り立つのかどうかということで、すごく不安を持たれています。それは現実なんですけれども、ケアマネという職種の方が、今回12月ごろに説明があって、1月には今度利用者に説明するという、すごいキープポイントを持っていると思うんですけれども、このケアマネというのはほとんど指定された事業者におられると思うんですけども、その辺の実態はどうなっていますでしょうか。

議長（重光俊則君）石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君）要支援の方のケアプラン、第一義的に受けるところが、まず包括支援センターになるかと思います。包括支援センターが、また事業所に委託するという形でケアプランを立てていくことになる、この2つのパターンがございます。

委託する側のケアプランセンターは、デイサービスのケアマネではなくて、ケアプランセンターとしてのケアマネとなりますので、ケアプランだけ立てる事業所というのもございますし、系列としてあるところ、デイサービスとかを行っているところもございます。

ただ、こちらとしては、ケアプランセンターへの委託というふうに考えております。

議長（重光俊則君）江川議員。

13番（江川慶子君）わかりました。ありがとうございます。

ほとんどやさかを通してということですね。地域包括を通して采配がされるということですね。

あと聞きたいのは、この表の中で、実施方法の中で、事業者指定というのは今までどおりなんですけれども、この中に、Bには委託というのが入っていますよね。それから③のサービスBには補助（助成）という形で表現されています。ちょっとこの辺の違いを教えてください。

議長（重光俊則君）石川健康・いきいき高齢課長。

健康・いきいき高齢課長（石川節子君）現行のサービスは全て指定をしたところという形になるんですけれども、例えばA事業所が、さあ通所型サービスAをしたいと言ったときには、指定という形もとれるし、町から委託という形もとれますということになります。

Bについては、NPOとかも視野に入っておりますので、その中の事業の中の一部を補助する観点で助成という形をとりたいと考えております。

Cについても、これは直接実施、これは市町村が直接、今はふれあい元気教室等を行っておりますけれども、そのように、今のように市町村が直接やるというのもこの通所型サービスCに入りますし、市町村が委託して、その委託先に担っていただくという形もとれる形です。

以上です。

議長（重光俊則君）江川議員。

13番（江川慶子君）町が委託する形になるんですか。熊取町がその事業、どういった事業になるかわからないんですけれども、そこに委託するという形。例えばどういうところが来るのか、生活支援というところで、全然種類が違う自動車整備とかそういったところだとか、タオル工場だとか、そういったところも入ってくるんでしょうか。ちょっとイメージがね。

生活支援を委託すると、そういうところが手を挙げた場合でも、そういうところに委託するということがあり得るということでしょうか。

議長（重光俊則君）山本浩義健康福祉部理事。

健康福祉部理事（山本浩義君）生活支援というところの事業についての委託、訪問型サービスの生活援助の部分でお答えさせていただいてよかったかなと思いますけれども、指定ではありませんので、広く事業者に手を挙げていただければというところはあるんですけれども、やはりそれなりのノウハウであるとか、あと研修を受けて、例えばサービスAであれば、しっかりと生活支援をできる研修を受けなければいけないというような、そういう一定の制約がありますので、そこをクリアしなければ参画していけないというところはあるかというふうには考えております。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。佐古議員。

10番（佐古員規君）5ページのほうの通所型サービスのほうでちょっとお聞きしたいんですけれども、このようなサービスで、通所型サービスAとかBとかに事業者もいろいろ参画してくださることを願っているんですけれども、そういうふうな場合にですけれども、ちょっと2つぐらい要望がありまして、1つは、そういった事業者との意見交換等をしっかりやっていただきたいなということが1つと。

それから、今度こういうサービスAとかCとかが出てきた場合、一番問題となってくるのは、やっぱりその方たちの足であります。だから、訪問というか、送迎ですよね。そういった場合に、うまくひまわりバスを活用できるような、そういった検討も今後必要ではないかなというふうに考えております。ですから、ある程度まとまった地域にそういった事業所がありましたら、そういったものもぜひ検討していただけないかなというふうに考えております。その辺2点です。いかがでしょう。

議長（重光俊則君）山本浩義健康福祉部理事。

健康福祉部理事（山本浩義君）事業所とのコミュニケーションはおっしゃるとおりです。しっかりとっていかねばいけないかなというふうに思っております。

先ほどの鰐谷議員のほうからも、やはり事業所で困っているところの経験談といいいましょか、そういう情報をいただいております。やはり我々も事業所もしっかりとこのサービスの提供をやっていってもらわなければいけないという立場でありますので、そこはコミュニケーションをとってウイン・ウインの中で、この制度の構築をさせていただければなというふうには思っておりますので、ご理解いただければと思います。

あと、それと、やはり移動支援というところにはなってくるので、これは、例えばこの資料で6ページ、最後のところで、生活支援の別紙2で、一番右側のところの箱の4つ目のところで移動支援というふうにあります。やはり地域の方々、民間事業者、あといろいろ関係機関の方々が集まって移動支援について話し合っ、どういうふうにサービスを提供していければいいかということを考えていく、そういう場も設けていければなというふうには思っておりますし、ひまわりバスの件につきましては、議員ご承知のとおり、一筋縄ではなかなかいかなくて、やはり関係機関との調整もありますし、その中で、地域包括支援センターのバス停を、今回、春に新たに設置をやっていただいたというところもございまして、それはすごく利用者、また事業所に喜んでいただいております。

できるところはしっかりと調整はやっていくんですけども、この場で解決、結論というところはやはり調整が必要ということがあるということをご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

議長（重光俊則君）佐古議員。

10番（佐古員規君）この質問をするに当たっては、こういう通所型サービスで地域に貢献したいというある企業がありまして、それでいろいろご相談していたところなんですけれども、やはり一番人件費というか、ネックになるのは、その送迎やということだったんで、ひまわりバスの活用はうまくできないでしょうかねという、そういったご質問等がありました。

ですから、やはりそういった意味で小回りのきくひまわりバス、ぜひともそういったのも、部署をまたいででもしっかりとその辺検討をお願いしたいなと。これは熊取町にとっての事業ということで、しっかりその辺もひまわりバスの運行も含めて、今回変わったばかりですので、これ以上なかなか言いにくいんですけど、そういった意味で、柔軟な対応をご期待したいと思います。これは要望でございます。要望で結構です。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

進行上、ちょっと交代せずに要望だけ言わせていただきたいと思います。

一番最後のページに、その前にもあるんですが、ボランティアの活動というのが、今回の太い点線の枠の中にはないんですけども、1つあるんですが、通所型Aのボランティアですね。それから、もう一つは、通所型サービスBのボランティア、訪問型サービスBのボランティア。ボランティア活動に対して、やはり熊取町は余りにも支援が少ないと思うんです。それと、今、こういう活動をする方は責任が生じます。これはやはり知識もないといけないし、経験もある程度必要だし、それから責任も生じてくる可能性が高いと思うんです。

だから、しっかりとボランティアの人が活動できるような支援を、やはり物理的に出していただくことを十分に検討していただいて、やはり支援の厚くて、活動している、生きがいを感じられる場をつくっていただかないと、鰐谷議員が言いました担い手づくり、これは非常に大変なことになると思いますので、その辺は十分にご検討いただきたい。非常に短期なんです、ご検討をお願いしたいことを要望しておきます。

これをもちまして、総合事業移行の進捗状況と生活支援体制の整備についての件を終了いたします。

次に、案件3、永楽ゆめの森公園駐車場の有料化についての件を説明願います。山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君） それでは、よろしく願います。

永楽ゆめの森公園の駐車場の有料化についてご説明させていただきます。

まず最初に、永楽ゆめの森公園の利用者アンケートを先日実施させていただいておりまして、資料のほうは、議員の皆様には資料提供ということでお配りさせていただきますが、ちょっとこの機会をおかりしまして、簡単にご報告させていただきたいと思います。

5ページ願います。

永楽ゆめの森公園利用者アンケート結果。

調査日につきましては、平成28年5月14日土曜日から平成28年6月12日日曜日まで実施いたしました。回答数につきましては、792件回答をいただいております。調査箇所につきましては、永楽ゆめの森公園の利用者に対しまして、現地で実際にアンケート調査を行いました。あと、役場庁舎ほか役場の庁内関係施設にアンケート用紙を据え置き型ということで置かせていただきまして、ご意見のほうを聴取させていただいております。

まず、1番のお住まいはどちらですかという問いに対しまして、回答数が792件いただいております。町内と答えていただいた方が159件で20.1%、町外が633件で79.9%となっております。

2番の永楽ゆめの森公園を利用したことがありますかという問いに対しまして、回答数792件に対しまして、あるが782件で98.7%、ないが10件で1.3%となっております。

問い3の何回目のご利用ですかという問いに対しまして、回答数781件。最も多かったのが1回目、初めてという方が335件で42.9%。続きまして2回目の144件、18.4%。続きまして3回目102件で13.1%ということになってございます。ただ、複数回ご利用いただいている方が5割を超えておりますので、一定リピーターの方も定着しているのではというふうに理解しております。

問い4の来園の交通手段は何ですかという問いに対しまして、回答数が777件のうち、お車でご来園いただいているのが757件ということで、97.4%となっております。

問い5の何人でお越しですかという問いに対しましては、回答数が782件で、回答のほうを平均させていただきますと、大人のほうが平均で2.4人、子どものほうが平均で2.8人となっております。

6ページをお願いします。

問い6の利用時間はどれぐらいですかという問いに対しまして、回答数が705件、一番多かったのが2時間で225件、31.9%となっております。続きまして3時間の187件、26.5%。続きまして1時間の112件で15.9%ということになってございます。この利用時間のほうを平均しますと2.8時間ということになってございます。

続きまして、問いの7、永楽ゆめの森公園の満足度はいかがですかという問いに対しまして、回答数が771件に対しまして、満足とお答えいただいたのが548件で71.1%回答をいただいております。満足度の理由のほうをご記入いただきまして、回答数が580件ということになってございます。肯定的なご意見が428件いただいております。施設の充実、自然環境、立地条件、駐車場が無料ということなどご回答いただいております。否定的なご意見をいただいているのが152件ございまして、施設の不満が80件、あと芝生の養生中というのが54件いただいておりますが、調査日につきましては、芝生をまだちょっと養生の途中でしたが、7月芝生のほうを開放させていただいておりますので、この54件についてはもう解消しているものというふうに考えてございます。続きまして、遊具等の増設希望のほう聞かせていただきましたところ、360件ご回答いただいております。遊具の増設が47件、あとブランコ46件、水遊び場46件、日陰、ベンチなどが42件というふうになってございまして、あとは記載のとおりというふうになってございます。

問いの8、駐車場料金についてお答えくださいという問いに対しまして、回答数が734件となっております。一番多かったのが300円ということで381件の51.9%ご回答をいただいております。

続きまして300円未満ということで159件の21.7%、続きまして500円ということで126件の17.2%ということでご回答いただいております。

問いの9、その他ご意見ということで、回答数が277件いただいております。そのうち、一番多いのが駐車場が無料というのが82件、続いて日陰、ベンチというのが41件、続いて遊具、施設等の増設というのが38件、以下記載のとおりということになってございます。

以上で、アンケート調査のご報告を簡単にさせていただきました。

続きまして、本題に入らせていただきます。

永楽ゆめの森公園駐車場の有料化についてでございます。

1 ページお願いします。

まず1番、背景・目的でございますが、永楽ゆめの森公園につきましては、昨年11月21日の開園以降、多くの方にご来園いただいております。8月末現在で来園者数が22万8,000人を超える状況となっております。この間、来園者の安全確保や円滑な交通誘導のため、公園管理人や交通警察員の増員を行う必要があったため、当初の予定より維持管理費が増大しております。

このため、維持管理費の財源確保と受益者負担による公平性の確保のため、駐車場の有料化の検討を進めたいと考えてございます。

なお、5月14日土曜日から6月12日日曜日において実施いたしました永楽ゆめの森公園利用者アンケートにおいて、駐車場を有料化した場合の質問に対しまして、回答数734件のうち672件、91.6%の方から、駐車場の有料化を肯定するご回答をいただいております。

次に2番、駐車場料金（案）についてでございます。

1番、有料化開始時期でございますが、平成29年4月1日より実施させていただきたいと考えてございます。2番、駐車場開放時間につきましては、終日24時間開放させていただきたいと考えてございます。また3番、有料時間帯につきましては、平日は、奥山雨山自然公園へのウォーキング等のお客様を考慮いたしまして午前11時から閉園まで、土日祝日につきましては、開園から閉園までとし、これら時間帯以外は無料といたします。なお、開園時間につきましては、通常は午前9時から午後5時まで、5月から8月の夏期間は午前9時から午後6時までとなっております。

次に、料金体系でございますが、記載しています表のとおり、普通自動車の場合、最初の30分は無料、その以降は1時間ごとに100円加算となり、1日最大500円となります。バス等大型車の場合はその倍となっております。なお、アンケート結果からも駐車場料金につきましては、全体の51.9%の方が300円と回答され、来園者の平均利用時間は2.8時間となっておりますので、この場合、上記駐車場料金を当てはめると300円となり、アンケート結果を踏まえた料金設定となっております。

次に、駐車場の有料化に伴う収入見込みでございますが、土日祝日につきましては、平成27年12月1日から平成28年8月31日までの土日祝日の来園者数が13万1,712人で、それを日数89日で割り、1台に4人が乗車していると仮定し計算しますと、台数のほうが370台となり、それに29年度の土日祝日の日数を118日とし、1台当たりの利用料金を300円と仮定しますと、約1,310万円の利用料が見込まれ、平日におきましても同様の考えで計算しますと、約490万円の利用料が見込まれますので、年間の有料化による収入見込み額は約1,800万円となるものでございます。

2 ページをごらんください。

3番、料金システム設置及び駐車場改修費用の概算でございますが、あわせまして4ページの図面もごらんください。

駐車場改修費用といたしまして、第1駐車場、第2駐車場、第3駐車場を結ぶスロープの設置、及び第3駐車場へ新たに10区画の駐車場整備などの費用といたしまして1,370万円、第1駐車場及び第5駐車場に設置の駐車場料金システム設置費用が1,080万円、臨時駐車場につきましては、使用日数が、夏場を除く土日祝日となり、年間約100日間となることから、人による料金徴収を考えてございまして、料金徴収小屋やタイムレコーダーの費用として170万円、墓苑駐車場は墓苑使用

者専用駐車場であることから、特定の人を認識できる駐車場システムの設置費用として710万円必要であり、工事費合計が3,330万円となっております。

また、保守費用として駐車場システムの保守費用が年間73万円、管理費として第1及び第5駐車場に設置の駐車場料金システムの管理費用が年間108万円と臨時駐車場の料金徴収に係る人件費が年間140万円必要となり、工事費と合わせますと、初年度に必要な経費は合計3,651万円となっております。

4番、経費及び収入の推移、及び5番の検討結果でございます。

駐車場システムの使用年数が約10年程度であることから、10年間の推移としてでございます。ごらんのとおり、駐車場を有料化するには、料金システム設置及び駐車場改修に約3,330万円、管理費等のランニングコストとして年間約321万円が必要となりますが、有料化することにより、年間約1,800万円の収入が見込めることから、設置費等につきましては、約3年で償却でき、その後はランニングコストを差し引いても年間1,479万円の収入が見込めることとなります。

以上から、平成29年4月1日より駐車場の有料化を実施したいと考えてございます。

6番の今後のスケジュールでございます。

平成28年12月議会におきまして、駐車場の有料化について条例改正を上程させていただき、あわせて料金システムの設置及び駐車場改修費の補正予算のほうを計上させていただきたいと考えております。

続きまして、平成29年1月から平成29年3月にかけて、駐車場改修及び料金システムの設置工事の実施、平成29年4月駐車場有料化を開始したいと考えてございます。

続きまして7番、指定管理者制度の導入についてご説明させていただきます。

平成28年11月、12月議会の会期前、議員全員協議会で内容のほうをご説明させていただきたいと考えてございます。平成28年12月議会、指定管理者制度に係る条例改正のほうを上程させていただきたいと考えております。平成29年6月議会におきまして、指定管理者の指定。平成29年10月から指定管理者制度による管理運営を実施したいと考えてございます。

3ページには、近隣公園の駐車場の利用体系を記載しておりますが、泉佐野市及び岸和田市の料金体系につきましても、本町と同程度となっております。

今後におきましても、良好な維持管理に努め、多くの方々にご来園いただき、安全で安心して遊んでいただけるよう、魅力ある公園づくりを行ってまいりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上です。

議長（重光俊則君）ただいま説明がありました本件について、質疑があれば承ります。質疑はありませんか。二見議員。

7番（二見裕子君）ちょっと料金システム設置のところで教えていただきたいんですが、墓苑の駐車場無料となっていて、チェーンゲートをつけるということで、これはカード式というふうになっておりますけれども、これは墓苑を利用する方にカードをお渡ししてという意味でしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）今、墓苑のほうが約1,000基ございまして、その方に駐車場のカードを配布させていただきたいというふうに考えてございます。

墓苑の駐車場につきましては、基本墓苑の方専用ということになってございますので、通常の料金システムでいきますと、一般の方が間違っ入ってこられるというケースもございまして、そのカードを持っておられる方以外は入れないようなシステムということで、そういうことを考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）二見議員。

7番（二見裕子君）前にもどなたかの議員が質問されたと思うんですけども、家族の方で駐車場、何

台かで行かれる場合とかあると思うんです、墓苑です。そのような場合は、カード1枚しかなくて、挿して何台も入れるというふうにはなっているんですか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）配布させていただく枚数につきましては、また担当課の環境課のほうと今後調整させていただきまして、決定させていただきたいというふうには考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。佐古議員。

10番（佐古員規君）ちょっと2つぐらい質問させていただきます。

ハイキングとかで今まで永楽ダムを利用されている方は、この有料の平日のところで言うたら、それを考慮して11時から閉園までということをお聞きしたかと思えますけれど、大体朝方なんだろうかな。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）今回これを設定するに当たりまして、駐車場の利用状況というのも若干調査のほうはさせていただいております。やはり傾向といたしましては、早朝のご利用、朝早くからご利用いただいていて、やっぱり昼前後ぐらいまでかなというふうなところとなっております。ただ、車まではきっちり特定できませんので、やはり昼前ぐらいになりますと、公園の利用者もふえてきますので、駐車場がやっぱりちょっと公園利用者のほうが多くなってくるというふうな傾向かなというふうになっています。

ただ、朝一のときにつきましては、第1、第2というダムに近いほうの駐車場がやはりほぼ満車の状態ということになってございます。今の料金設定でいきますと、一応11時までが無料ということで、そこから30分間はまた無料ということになりますので、最大11時半までは無料でご利用いただけるというふうに考えてございまして、ただ、そこから後の分につきましては、このダムとかハイキングとかでお使いいただいている方と公園の利用者の区別というのは若干ちょっと難しいというふうに考えてございますので、一定無料の時間帯の設定は11時までというふうにさせていただきたいというふうに考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）佐古議員。

10番（佐古員規君）ありがとうございます。

これによって、ハイキングで健康増進のために回られている方が減らないことを願っております。

もう1点は、この駐車場を利用するに当たって、例えばサービス券であったり、パスポート的なもので、定期券みたいなもの、1カ月何ぼで買うたら、もう駐車場は使い放題じゃないけれども、そういう感じのサービスというのは、今後検討はいかがでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）今現在、そういう考えは持ってございません。他市の状況も確認させていただいていますが、そういう料金設定をしているところというのはちょっと見受けられませんので、またその辺は調査させていただきまして、今後、検討させていただきたいというふうに考えてございます。

議長（重光俊則君）佐古議員。

10番（佐古員規君）リピーターが多いということは、そういった何回も来られるのかなと思うんで、その辺の値段設定等もまた必要でしょうけれど、ぜひその辺も検討していただきたいということ、これはご要望させていただきます。

もう1点だけ。この収入のところですけども、収入見込みで、今1,800万円ということで計算されておりますが、これもやっぱりちょっと危険な数字かなと思っております。ずっとこれが推移するわけではないかなというふうに感じておるんで、その辺も加味しても、まあまあいい数字になるのかなと思うんですが、その辺はまた指定管理者が考えていくのかもしれませんが、その辺、

この収入見込みについてですけど、これはこのまま推移されとお考えでしょうか。どんな感じでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）一応、収入については、決してこれが維持されるというふうには思っていない。ただ、あくまでも試算の段階で、我々が計算し得る金額ということで、今までの来園者数と、あと、1台当たりも4人ということで設定させていただいてございますので、余り欲張った数字ではないのではないかとこのふうには理解はしてございます。ただ、若干有料になるとどうしても減るというのは、一定はちょっと仕方ないところかなというふうには考えてございますが、この金額についても、余り欲張って多く計上しているものではないというふうには認識してございます。

以上です。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。浦川議員。

3番（浦川佳浩君）幾つかあるんですけども、ちょっと先ほど佐古議員も触れられましたが、ずっと年間1,800万円の収入と、10年間見込まれていて、これは20万人、当初22万人ですか、今来られている人数が。この計画でも20万人を台数で割っていますけれども、ずっと20万人来られるというような予想を立てられていて、台数で割っているんで人数はまたあれなんでしょうけれども、阪南市のわんぱく王国も開園当初やっぱり20万人来られていて、今10万人と、すごく半分以下になっている。維持修繕費が非常に大変だというような話を、私、6月議会でさせていただいて、このアンケートでも91.6%の方が駐車場の有料化を肯定されている。これは何で肯定したかという背景はどのようにお考えでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）明確に無料と書いていただいている方というのは、当然ございます。ただ、肯定していただいている方というのは、先ほどもご説明させていただきましたが、300円というふうに答えていただいた方が一番多くて、あと500円、あと300円未満ということで、例えば100円、200円というお答えいただいている方もいらっしゃいました。

ただ、我々の認識としては、この規模の公園を利用する場合に、駐車場が有料であっても一定許容していただいているのではないかとこのふうには認識してございます。

以上です。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3番（浦川佳浩君）公園のことなんで、どうしても私も小さな子どもがいるんで、割とそういう同じような世代の人と話をすることが多いんで、この駐車場有料化についてもアンケートを配られたときに話題によくなっていました。

そこで、やっぱり肯定的に、アンケートの結果に有料化を肯定されている人たちでも、今後の公園の維持管理であったり、公園がバージョンアップしていくとか、そこに非常に期待を込めて有料化に賛成していくという部分がすごく多かったんです。

なので、要は、料金を上げて、無料でスタートしたものを料金を取りますという形になった以上は、なぜ料金を取ったのかというところが、非常に納得性がいくものでないと、今アンケート結果で1回、2回の方が、リピーターの方が先ほど半分ぐらいというふうにおっしゃっていましたが、とてもじゃないけれども、今のまま続けて10年後も20万人来ているかというのは、ちょっと難しいんじゃないかなと。

であるならば、料金を取る、取ったかわりにその料金を原資として、本来であれば、私はずっと水遊び場をつくってほしいというふうにお願ひしているんですけども、何とかそういう公園が10年後もたくさん来ていただけるような、10年たっても20万人来ていただけるような、そういった計画のほうをぜひとも進めていただきたいと思います。

夏休み期間中、熱中症対策で何かミストシャワーですか、つけられたと思うんですけども、この夏休み期間中の利用者というのはどうでしょうか。通常の月と比べて減ってはいないんでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）夏休み期間中の利用者につきましては、実際のところは減ってございます。やはりピークといいますか、気候のいいときには、土曜日、日曜日につきましては、やはり2,000人から3,000人ぐらいご来園いただいております。ただ、8月でいきますと、一番多いので800人、これも8月の一番最後の日曜日が821人ということになってございまして、あとの日曜日は300人から500人ぐらいで推移しているというふうになってございます。

ただ、どうしても夏場の公園というのは、一定減るといえるのはいたし方ないところではないかというふうにも認識してございまして、やはり海水浴であったりとか、プールであったりとか、やっぱり利用される方というのはそちらをメインにされているのかなというふうに考えてございますので、そこと争うのは公園としては難しいのかなというふうに考えてございます。

ただ、情報としまして、夏休み明けの9月に入ってから、土日で1,000人、直近の土曜日では1,700人ということで、顕著に回復というか、増加はしておりますので、まだこれから秋、春ということで、気候のいいときには、開園当初程度の来園者というのは見込めるのではないかというふうに考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3番（浦川佳浩君）その件についても、ちょっと私6月議会で触れたんですけども、和歌山市のさぎのせ公園ですよね、私、実際、夏場、去年の夏にさぎのせ公園と、実際に水遊び場がある公園3カ所ぐらい、県立公園も含めてですけども、いろいろ見てきたんです。やっぱり夏休み中のさぎのせ公園というのは、もう本当に2人ぐらいしか子どもがいなくて、同じ時期、翌日水遊び場がある公園に行くと、もうその水遊び場の周りにすごい人がたかっているというか、集まっていて、水遊びを、芝生で遊んで疲れたら水遊び場でちょっと水と触れてみたいなというような形でにぎわっていたと。

やっぱりその40日の期間ではありますけれども、その40日の間、公園が生きている公園であるのか、死んでいる公園であるのかというのは、この水遊び場があるかないかで全然変わってくるんです。

先ほど駐車場の有料化について、もうこれを設置した以上はたくさん来ていただくほうが当然町としても助かるわけで、せっかくつくった以上はランニングコストというのはもう必ず毎回かかってくるものですから、この当初予想していたとおりにお金を回収していかないといけない方向にいくわけです。であるならば、当初、やっぱり最初、金額的なものは張るかと思うんですけども、今後10年、これ、10年間の計画が立てられていますけれども、この駐車場の料金が1,800万円毎回入ってくるような形で、この40日間の公園も、期間中も生きた公園にしていくために、ぜひとも水遊び場というところも検討していただきたいというふうに思います。

議長（重光俊則君）矢野議員。

11番（矢野正憲君）浦川議員がおっしゃったとおりだと思います。

1年間の駐車場有料化に伴って1,800万円、これが10年間続くとはい到底思えません。

やはり先ほど浦川議員のほうからありましたけれども、わんぱく王国が20万人が10万人に減ったとか、例えばrinku公園がどういうふうな感じで利用者数が推移しておられるのかとか、いろんな公園のやはり実例をちょっと調べていただいて、係数をつくって、1年や2年は1,800万円の駐車場料金が見込める、だけど、5年は何ぼや、7年、8年は何ぼやというような、やっぱり実例に近いようなものを示してもらわないと、年間1,800万円というのが10年続くなんで、とてもじゃないけれど、我々も信用できませんし、こんなん、そのとおりやなんて言えませんよ。

その辺は、やはり実例に近いような数字を出してもらうために、いろんな公園の年間、1年目は何人の利用者数があったとかというふうなことを出してもらわないと、それをしてからこれを出してもらわないと、なかなか、そういうことや、いいことやなというふうなことになりませんよ。その辺はしっかりもうちょっとやり直していただきたいですね。

議長（重光俊則君）大西事業部理事。

事業部理事（大西 宏君）今、矢野議員のほうから実例、実績というお話がありましたけれども、ただ、ゆめの森公園が開園してまだ1年たってございません。確かに先ほど浦川議員がおっしゃった阪南市のわんぱく王国ですか、そちらのほうの実績とかも伺ってはおりますけれども、ただ、その実績の率イコールゆめの森公園に該当できるかということもちよっと不確定要素もある中で、当然調査はさせていただくんですけども、その実績イコールゆめの森に該当するかとか、確かに浦川議員の話にもありましたさぎのせ公園とかも、我々も視察も行かせていただきました。ただ、条件的に都会の真ん真ん中にある公園とかも、地理的なこと等もありまして、各公園の利用者数がイコールそのままストレートにこのゆめの森に適用できるかというのが一つの不安要素もございます。

今、この表には試算で10年目で1億1,460万円という表示は、これは試算でございますけれども、ちょっと課長が申し述べましたように、若干は減るというふうには考えてございます。ただ、減らないように精いっぱい我々PR等に努めてまいりたいので、例えば、これが極端なことを言いまして、50%になるとなれば、この数字が5,000万円になりまして、それでも年間500万円という数字が上がってくることになります。

この背景・目的のところでも維持管理の財源確保と受益者負担による公平性の確保、これも一つ大きく理由がございますので、当然公園のレベルアップというのも確におっしゃられることは、我々も認識はしておりますけれども、現時点での維持管理費の財源確保と受益者負担による公平性、これもちょっと大きくご認識いただきたいなというふうに考えてございます。

だから、明確に今の矢野議員の回答にはちょっと不適切かなとは思っておりますけれども、我々も精いっぱいこれから利用者が減らないような努力を考えてまいりたいと思っていますので、ご理解のほう賜りたいと思います。

議長（重光俊則君）矢野議員。

11番（矢野正憲君）担当課は努力せないけないと思いますよ。いけないと思いますけれども、いろいろな理由で利用者の実数、利用者数が減るか減れへんかというふうなことも、いろんな公園がある中で、そういうふうな係数を出してからやっていかないと、より近い数字にはならないと思います。

今おっしゃっているゆめの森公園とこの公園は合うか合えへんか、比較対象になるなれへんというふうなことをおっしゃっておりますけれども、やっぱり実数に近いようなことを出そうと思ったら、やはり和歌山市のさぎのせ公園、夏なんか言うたら、浦川議員は2人しかおらんかったというようなことを実際に行かれて、自分で感じているというふうなこともあったりするわけですから。さぎのせ公園をモデルにしながら、これをつくったわけですよ。私自身も、さぎのせ公園、こういうふうな大きな遊具があるところは和歌山市のさぎのせ公園やというふうな答弁等もありましたから、僕自身も行ってきましたよ。僕が行ったときは物すごいやってた。だけど、はやっていた公園がオープンして2年たって、3年たったら、そのままの利用者数を維持しているのか減ってきているのかというようなことというのは、参考になるとは思いますけれどね。

それを参考にした係数を出して、どういうふうな金額になるのかというふうなことはやるべきやと思います。まず第一歩はそこやと思います。やれへんのやったら、もう賛成しません。

議長（重光俊則君）大西事業部理事。

事業部理事（大西 宏君）私も和歌山市の地元ですので、さぎのせ公園はちょくちょく見させていただいております。ただ、先ほどもしつこいようですけれども、申し上げましたけれども、その実績がイコールゆめの森に合うかというのは、これは個々の各公園で、やはり人気のある水遊び場があるとか、そういった要素で非常に大きく違ってくるのかなというのがございます。

それで、例えばその実績をもって試算をしていって、例えばのことで、有料としても金額は上がらないということになれば、これはまた意味がないということで、今、冒頭に目的のところ私申し上げましたけれども、維持管理費がこれから、現時点で約300万円ずつとかかかっていく中で、これらの経費を少しでも減らしたい、それと受益者負担、公園を利用される方を対象にした受益者負担と、利用しない方も熊取町内にもおられると思うんで、そこらの受益者負担の公平性の確保のために、少しでも有料化して、この維持経費を確保して、今後の維持管理経費に充てていきたいというのが強い思いもございますので、よろしくお願いします。

議長（重光俊則君）泉谷事業部長。

事業部長（泉谷 徹君）すみません、今、駐車料金の見込みということで、ご質問されてございます。

確かに議員皆様方がおっしゃられるように、10年間この1,800万円でいけるのかというのは、担当原課にしてもそこは難しいという理解はしてございます。また、浦川議員がおっしゃられたように、やはりいろんな仕掛けをしていかな、人というのは減ってきます、飽きもきます。そんな中で、新たな遊具の設置、また遊具の今の維持管理、緑の確保等々、魅力ある公園づくりを続けていかなければ、この金額というのはなかなか難しい。また、それをやってもこの金額というのはなかなか難しい金額ではないかなというところは原課のほうも考えてございます。

ただ、今、どんだけ、そしたら減っていくかという見込みというのは、逆に難しいということで、一旦今回は年間1,800万円という金額でお示しをさせていただいて、累計として1億1,460万円ぐらいは黒字になるかなと。ただ、理事が申しましたように、半分になっても5,000万円程度の黒字というのは見込めるんじゃないかなということは考えてございます。

また、矢野議員がおっしゃられましたように、ほかの公園の流れ、どれぐらい人が減ってきているかというのも、それは調べることはできるだけ調べたいと考えてございます。ただ、10年間利用者の数を確保されている公園があるかどうかというのも含めまして、近隣のこれまでいろんな意見を聞かせていただきました市町村に対しましては、その辺の調査を一遍かけたいと思います。そここのところは、またかけた段階で、どれぐらいの数字が確保できているのかも含めまして、また資料提供のほうでもさせていただきたいと考えてございますので、よろしくお願いいたします。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。江川議員。

13番（江川慶子君）すみません、条例については12月に改正案が出るということなんで、その辺のことで話を聞きたいと思うんですけど、ちょっと一つ聞きたい点は、バスについては、この駐車場の中には入ってこられないですね。どのような計画になっているのか教えていただけますか。

議長（重光俊則君）泉谷事業部長。

事業部長（泉谷 徹君）バスにつきましては、道路課のほうの担当となってございますので、私のほうからご説明させていただきます。

バスにつきましては、以前から下のほうに一旦下げさせていただきまして、いろんなまた議員からその後もご意見をいただきました。検討はしてございます。

一つ大きな問題となっておりますのが、渋滞でございます。特にこれから秋……

議長（重光俊則君）江川議員、もう一回質問し直してください。

13番（江川慶子君）すみません、循環バスでなくて、大型のバスの駐車場の件でお聞きしました。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）すみません、バスの駐車場の利用についてですが、一応料金設定のほうは普通乗用車の倍というふうに設定させていただきたいというふうに考えてございます。

ただ、通常のバスですと、今考えています第1駐車場から入っていただくということは、ちょっとできませんので、その場合は、第5駐車場の出口の部分から入っていただくような方式をとらせていただこうというふうに考えてございます。

そこは、料金システムのところで管理会社と通話できるような形にもなりますし、あとは公園の管理人とも連絡をとれるような体制をとらせていただきまして、バスが来たら第5駐車場の出口の

部分をあげさせていただいて、駐車場の中に入場していただくというような方法をとらせていただこうというふうに考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。副町長 中尾清彦君。

副町長（中尾清彦君）先ほど浦川議員、それから矢野議員から質問のありました件につきましては、泉谷部長のほうから回答を申し上げたとおりでございますけれども、今回の有料化に伴った経費、それから収入の推移ということで、概算でお示しさせていただいた、この10年間の一定の数値が入っていることについて、非常にご懸念を抱いていただいておりますということなんですけれども、やはりこれから魅力ある公園づくりということで、維持管理経費であるとか、新たな遊具の投資経費であるとか、そういうものが公園にとっても重要な要素でありますので、ご心配いただいた点については、重要な数値のデータであるというふうに理解しておりますので、やはり危機意識を持ちながら、入場者数が不可抗力によって下がったとしても、この経費で見通せるような、そういう意識を持っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。浦川議員。

3番（浦川佳浩君）すみません、ちょっと別なんですけれども、アンケートの結果で町内の利用者が2割で町外が8割。これ、そもそも駐車料金を取ることになったのは、たくさん人が来られて、それを整理する警備員云々の件で駐車料金という形になっているかと思うんです。

この公園は、熊取町の住民がそういった意味では負担してでき上がった公園で、町外の人たちは何ら負担することなく今利用されていると思うんです。そこでちょっと町内の人たち、いわゆる2割の人たちに、先ほど公平性云々という話が課長から出ましたけれども、そういった意味では、町内の人に全く何の恩恵もない、町外の利用者が8割で、そういった意味では公平性が欠けると思うんですけれども、その点についてはどういうふうに、なぜ一律同じというふうにお考えなんですか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）まず、その料金システムでの徴収ということで考えてございますので、まず、町内、町外の人を分ける方法といいますか、まず、それが今のところちょっと難しいのではないかと考えてございます。

あと、近隣の、例えば岸和田市、泉佐野市の同等の駐車場料金をお示ししている公園でも、要は市内、市外の分けというのはしてございません。皆様同じ条件で市の財源、または補助金を取っていただいて整備はしようかとは思いますが、一定そこで町内、町外の利用者の分けというのは、一定していないのが現状かなというふうに考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）浦川議員。

3番（浦川佳浩君）いわゆる駐車場のシステム自体が物理的に難しいということですよ。

それでいくと、かなり強引というか、もうそのシステムがないんで一律なんですというような話になってしまうと思うんです。ないのであればもう仕方がないというところになるのかもわからないですけど、何かしら、例えば事前に公園をいついつ町内の人を利用するといった場合に、何かしらカードになるのかメダル方式になるのかはわからないんですけども、もしそういうのがあれば、事前に、今導入する前にそこもきちっといろいろ精査したけれども、やっぱりそういうところがないのかあるのか、その辺もちょっと検討していただきたいと思います。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）議員のご意見、貴重なご意見というふうに考えてございますので、その辺は調査させていただいて、今後、検討課題ということでさせていただきたいと思います。

もう1点、ちょっと補足的になるんですが、結果として町内の方が約2割ということになってございます。それで、この800件ぐらいの調査をしておりますが、大半は現地で土曜日、日曜日に、

実際我々が来園者の方に手渡しで調査させていただいたということになってございますので、それでいきますと、やっぱり町内の方の比率というのは大きくなって、一定いたし方のないところかなというふうに考えてございます。

ただ、例えば平日ですとかについては、ご利用の方というのはやはり町内の方も一定数利用いただいているのではないかなというふうには考えてございます。

以上です。

議長（重光俊則君）ほかに。佐古議員。

10番（佐古員規君）ちょっと1点だけ。

先般、この永楽ゆめの森公園で秘密基地のイベントが開催されました。そういったようなイベント開催時の対応としまして、やっぱり1日無料デーであったりとか、そういったサービスデー的なものを設ける必要があるのではないかなと思っております。

それで、来たことのない方に来ていただいて、よさをそこで宣伝するという格好で次の利用につなげていくような、そういう取り組みも必要かなと思っています。いかがでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）先ほど来、ご答弁させていただいている中で、やはり利用者の増といいますか、というのは当然我々の第一義やというふうに考えてございますので、その一つの内容として、例えば無料デーとか、そういうのは一つの要素かなというふうには考えてございますので、今後、検討というか、参考にさせていただきたいというふうに考えてございます。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。鱧谷副議長。

12番（鱧谷陽子君）すみません、駐車場の図なんですけれども、第1駐車場に障がい者のとめるところと、第4駐車場にとめるところがあるんですけれど、ここまではかなり坂になっているし、割合に距離があるんで、第1駐車場に車椅子の方がというのはちょっと長い距離をおりてこなくてはいけないという、この辺の何か理由とかあるんでしょうか。

議長（重光俊則君）山原水とみどり課長。

水とみどり課長（山原栄次君）現状のこの身障者用のスペースというのは、もう現在設置しているものでございまして、新たに設置するということではございません。ただ、今回、ゆめの森公園の開園に当たりまして、第3から第5というのを新たに駐車場として広げさせていただいた分で、その分に第4のところに4台分スペースをとらせていただいております。

第1の分については、もともと自然公園でありますとかダム広場を利用される方用ということで、設置したものになってございますので、やはり朝のハイキングですとか、そういう方々でご利用いただける方もいらっしゃるかなというふうには考えてございますので、一定現状のままというふうにご理解いただければなというふうに考えてございます。

議長（重光俊則君）よろしいですか。

12番（鱧谷陽子君）はい。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これをもって永楽ゆめの森公園駐車場の有料化についての件を終了いたします。

以上で、本日の案件は終了いたしました。

その他、何かご報告等があれば承ります。原田総務課長。

総務課長（原田哲哉君）長時間お疲れのところ申しわけございません。私のほうから、現在作成作業を進めております公共施設等総合管理計画の策定についてご報告、ご説明させていただきたいと思っております。

お手元の資料をごらんいただけますでしょうか。

まず、資料1番、計画策定の背景でございます。

資料に記載のとおり、我が国において、公共施設等の老朽化が大きな課題となっており、地方公共団体においては、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえまして、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点を持って、更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行い、財政負担を軽減、平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっております。

また、公共施設等を総合的かつ計画的に管理することは、地域社会の実情に合った将来のまちづくりを進める上で不可欠であるということから、平成26年4月22日付で総務大臣通知「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」が発出され、地方公共団体においては、公共施設等総合管理計画の策定に取り組むよう要請があったところでございます。

本町におきましても、1970年代から1980年代にかけて、特に学校教育施設が集中的に建設され、1990年代におきましても、ひまわりドームや環境センター、図書館や庁舎の東館など多くの施設が建設されています。単純に大規模改修を30年後、更新周期を60年と仮定いたしますと、2030年半ば以降から更新等に要する費用が将来の財政を圧迫することが想定されます。このような状況を踏まえ、本町におきましても、今年度中に策定すべく現在作業を進めているところでございます。

それでは、資料の2番、策定する計画の内容についてご説明させていただきます。

先ほどご説明いたしました総務大臣通知とともに、「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」が示されており、その指針において、総合管理計画に記載すべき事項が定められています。

記載すべき事項につきましては、大きく3つございます。

1つ目は、（1）公共施設等の現状及び将来の見通しということで、施設の老朽化の状況や施設状況を初めとした公共施設等の状況。また、総人口や年代別人口についての今後の見通し。さらには、公共施設等の維持管理・修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込みや、これら経費に充当可能な財源の見込み等でございます。

2つ目は、（2）公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針ということで、計画期間を初め、全庁的な取り組み体制の構築及び情報管理・共有方策。また、現状や課題に関する基本認識。さらには、公共施設等の管理に関する基本的な考え方やフォローアップの実施方針でございます。

最後3つ目は、（3）施設類型ごとの管理に関する基本的な方針でございまして、学校教育施設や庁舎などの行政系施設、また保健福祉施設やスポーツ・レクリエーション系施設など、施設類型ごとの特性を踏まえ、基本的な方針を定めるものでございます。

これらの指針に示された項目を踏まえまして計画を策定してまいります。計画（案）の作成体制についてご説明させていただきます。

資料の3番をごらんください。

まず、計画（案）の作成作業を進めるに当たりましては、（1）に記載のとおり、庁内におきましては、副町長を委員長といたしまして、施設等を所管する部署の部長級職員で構成する熊取町公共施設等総合管理計画策定委員会、また、計画作成に必要な調査、研究、検討を行う部会といたしまして、課長級職員で構成する検討部会を設置し、作成作業を進めているところでございます。これまで2回の検討部会と1回の策定委員会を開催し、先ほどご説明いたしました指針の内容等を踏まえ、共通認識を持つとともに、各施設等の現状把握に努めているところでございます。

続きまして、（2）をごらんください。

当該計画の策定に当たりましては、今年度当初予算措置をさせていただきましたとおり、策定業務の委託を行っております。策定業務委託事業者につきましては、株式会社ニュージェックでございます。委託事業者の決定につきましては、公募型プロポーザルにより事業者募集を行い、4社の事業提案をいただきまして、業務履行能力や提案事業内容、またプレゼンテーション等により当該事業者決定したものでございます。

当該事業者につきましては、専門的な技術職員を有するとともに、総合管理計画の策定業務の実績も有しておられることから、適切な助言等、現在ご支援をいただいているところでございます。

最後に、資料の4番、今後のスケジュールについてでございます。

先ほど申しましたとおり、現在各施設等の現状把握に努めているところでございますが、今後、本格的な作成作業に入っております。

年内に各施設等の現状整理と課題分析等を行うとともに、計画全体及び施設類型別の方針整理を行いまして、たたき台となる計画の素案を作成してまいりたいと考えております。その素案につきましては、12月議会定例会における議員全員協議会におきましてお示しさせていただきまして、議員皆様からのご意見を拝聴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。その後、1月にパブリックコメントを実施いたしまして、広く住民の方からのご意見を頂戴した中で、計画（案）とさせていただき、3月には公共施設等総合管理計画の策定を行ってまいりたいと考えているところでございます。

以上、簡単ではございますが、公共施設等総合管理計画の策定につきまして説明を終わらせていただきます。

議長（重光俊則君）本件について、何か質問はございますか。文野議員。

1 番（文野慎治君）すみません、確認なんですけれど、公共施設等の中に老人憩いの家というのは入っているのでしょうか。

議長（重光俊則君）原田総務課長。

総務課長（原田哲哉君）はい、老人憩いの家も入っております。

議長（重光俊則君）ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

ほかに報告はございますか。

（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で議員全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

（「16時38分」閉会）

以上の委員会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

議長 重光俊則